

# 平成29年度 学校経営計画及び学校評価

## 1. めざす学校像

四條畷学園小学校  
校長 北田 和之

一人ひとりが自分らしい生き方で社会に貢献できるよう、豊かな人間性と確かな学力が育つ学校をめざします。

1. 建学の精神「報恩感謝」を大切に、教育理念「教育の目的は人をつくること」に基づく教育を実践することにより、人間的な成長・発展を実現し人格の完成をめざします。
2. 生活・学習の両面において基礎・基本を徹底的に行い、社会的自立にむけ、そのため必要な基盤となる能力や態度を育成します。
3. 一人ひとりが持つ可能性を開花させるため、主体的に生きようとする態度と能力を養います。
4. 地域とのつながり強化し、安全で安心な学校をつくりまします。

## 2. 中期的目標

1. 建学の精神「報恩感謝」を土台に、独自性の高い教育を開発、実践します。
  - (1) 選び抜いた内容を実践し、改良を加えます。  
指導要領の内容と、独自に開発、改良を加えた学習を組み合わせ実践します。  
定期的に学習内容を公開し、教育関係者の意見をとりいれて教育内容を精選、改善します。
  - (2) 学校行事の見直し  
子どもの成長の糧となるもの、時代の要請に答えるべき行事を見極め、「何をこそ学ばせるべきか」を熟慮探求します。  
子ども自身の活動を重んじ、実行を助け、その結果を常に振り返るように指導します。
2. 基礎学力と基本的生活習慣の育成
  - (1) 生活習慣をしつける方策と実行時期の熟慮と、集団の中で育む方法を探求  
「何を」「どの機会に」しつけるかを熟慮し、規範を示すことにより、生涯にわたる自律の意識を育む指導を行います。  
意識的に縦割り集団を組織したり、グループ活動を取り入れたりして「みんなでいっしょに」「高学年を敬う」「低学年を育む」を常に考えさせることで、自律の意識を育みます。
  - (2) 基礎学力の徹底  
ひとりひとりの興味関心を大切に、学習に自信を持たせるように配慮し、意欲的態度や実行力の基礎を養います。
3. 主体的な生き方の尊重  
一人ひとりの興味関心を大切に、だれにも自信を持たせる教育を行います。  
道徳教育、人権教育を軸に、互いの個性を尊重しあえる土壌をつくりまします。
4. 安心、安全な学校づくり  
幼稚園や中学校とのつながりを密にし、相互の教育内容を充実させることにより、長期にわたる同じ方向性を持った指導を行います。  
自他の命を尊び、安全なくらしを希求する態度を育てるとともに、緊急時の対応を検討することにより、校内の安全性を高めます。

## 平成29年度 学校経営計画及び学校評価

### 3. 本年度の取組内容及び自己評価

【学校全体】 中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み内容	評価指標	自己評価
1.(1) 選り抜いた内容の実践と改良	1. 「指導要領プラス」をスローガンとしたカリキュラム・教材/教具を模索、実践しその効果を検証します。  2. 5・6年生の英語カリキュラムと教材を開発します。  3. 道徳教育の充実を図ります。	1. 公開授業研究会を視野に入れ、校内研究授業を計画実践し、今後の研究の深化に役立てます。  2. 指導要領にプラスした独自性のある学習プログラム開発します。 1. 現在まで行われてきた3～6年生のカリキュラムと教材を精選し、2～4年生用に再編します。 2. 5・6年生の英語が教科になることに伴い、新たな教材や教授法を研究、開発します。 3. 英語教科研究部を立ち上げ、複数教員による英語科研究体制を構築します。 教科道徳への移行をふまえ、週1回の道徳を確実に実施するとともに、「考える道徳」「学びあう道徳」の実践を進めます。 保護者や児童の意見をもとに、体育会や秋祭りに改良を加えます。	指導力向上に関する教員自己評価を4.3以上にします。(平成28年度4.3)	(平成29年度自己評価)
		1. 修学旅行の行き先と行程を変更します。  2. 林間学校を自然学校に変更し、縦割り活動を中心とした行事に改良します。 3. 5年生希望者に琵琶湖フローティングスクールを導入します。	保護者、児童アンケートのうち、「行事は楽しく充実している」の評価を向上します。	
1.(2) 学校行事の見直しと改良	1. 全校行事を改良します。  2. 宿泊行事を見直します。	1. 児童自身が校内のマナー向上策を考え、実行に移せるような縦割り活動や児童会活動を整備し、活性化を図ります。 2. 児童会活動のシステムを、さらによきものになるように検討を加えます。特に児童会主催の挨拶運動を奨励します。 3. 「自律の手助け」を念頭に置き、各家庭及び学級に配布する「しつけポスター」を指針として家庭と学校が協力し、指導を行います。	主体性に関する教員自己評価を4.1以上にします。(平成28年度4.1)	
2.(1) 基本的な生活習慣の育成	1. 児童の自主性・主体性がより発揮できるよう、児童委員会・係活動・縦割り活動、行事の内容を再検討します。  2. 規律遵守の意識レベルの向上を図ります。	1. 特に言葉づかい、時間遵守、姿勢について、教員が範を示し児童が見做ることができる機会を積極的に増やします。 2. 登下校のマナー向上のため、職員が交替で通学路に立ち、児童の直接指導に当たります。 3. 校外行事の日、校内に訪問者が来る日を『マナー実践の場』と児童に意識させ、実際の場に応用する機会を作ります。 4. 年度初めに各担任が「学校のきまり」を児童と保護者に説明し、理解と協力を求めます。 5. マナー、しつけについての学期目標を定め、児童と教員に周知その徹底を図ります。	保護者、児童アンケートのうち、「児童会活動や係活動をがんばっている」の評価を向上します。	
		1. 児童自身が校内のマナー向上策を考え、実行に移せるような縦割り活動や児童会活動を整備し、活性化を図ります。 2. 児童会活動のシステムを、さらによきものになるように検討を加えます。特に児童会主催の挨拶運動を奨励します。 3. 「自律の手助け」を念頭に置き、各家庭及び学級に配布する「しつけポスター」を指針として家庭と学校が協力し、指導を行います。	マナー・モラルに関する教員自己評価を4.3以上にします。(平成28年度4.3)	
2.(2) 基礎学力の徹底	1. 国語の観点のうち、「書く能力」の向上を図ります。  2. 国語の観点のうち、「聞く能力」の向上を図ります。  3. 教員の指導力向上をはかります。	1. 「書き、まとめる」「書いて考える」「書いて交流する」授業プランを開発、改良し、複数の教員が授業化することによりプランの質的向上を図ります。 2. 「書くこと」を意識した授業を全カリキュラムに導入し、児童の書いたノート、WS類を校内研究会で研究の対象にします。 3. 統一確認テスト等の学力テストで、基準とする値に達していない児童を抽出し、学級担任および学年補助教員が対象児童の学力向上に努める。次年度の学力テストでその成果を再調査し、指導方法が有効であったかを検証します。 4. 読書活動を励行し、「自ら本に手を伸ばす子どもを育てる」ことを意識した指導を行うことで、語彙を増やします。	学力向上に関する教員自己評価を4.5以上にします。(平成28年度4.5)	
		1. 低学年では「読み聞かせ」を重視し、聞き取った内容や感想を発表し合う場を持ちます。 2. 「読む・書く」の「繰り返し練習」により、「話の要旨を的確に把握して、その内容を理解できる」ための基礎となる知識、特に語彙力を増やします。 3. すべての教科で、聞き取ったことをメモしたりノートに取ったりする活動を増やします。 4. 児童が最後まで集中して聞いているかどうかを第三者に評価してもらい、アドバイスを受けます。	学力テストの、国語の観点別評価項目「書く能力」をすべての学年で前年度以上に引き上げます。  学力テストの、国語の観点別評価項目「聞く能力」をすべての学年で前年度以上に引き上げます。	
		1. 多様な指導形態による個に応じた指導法の開発に努めます。  2. 学年主任を中核としたOJTを推進し、若手教員の授業力や児童理解力、学級経営力の育成の日常化を図ります。	計画的な教員研修に関する教員自己評価を4.1以上にします。(平成28年度4.1)	

## 平成29年度 学校経営計画及び学校評価

### 3. 本年度の取組内容及び自己評価

#### 【施設・設備】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組み内容	評価指標	自己評価
5.教育環境の充実	学校の美化に全校で取り組みます。	1.児童の自教室の美化意識を向上させることを、校内全体の美化意識向上につなげます。  2.児童に持ち物を自主的に整理整頓させ、担任は定期的に指導を行います。  3. 児童会・美化委員会が企画立案する駅前清掃、校内清掃を実施します。  職員室の機器管理を徹底し、業務の効率を上げます。	美化に関する教職員の自己評価を4.0以上にします。(平成28年度3.9)  保護者、児童アンケートのうち、「校内の施設、設備は充実している」の評価を向上します。	

## 平成29年度 学校経営計画及び学校評価

### 3. 本年度の取組内容及び自己評価 【教育・研究】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み内容	評価指標	自己評価
4 安心、安全な学校づくり	<p>1. 児童の生命を守るために、対策をたて取り組みます。</p> <p>2. 児童の安全に対する意識を向上させるため、特別活動や道徳の時間を使って教育を行います。</p>	<p>1. 一般防災に関する対策</p> <p>(1) 防災マニュアルに沿った避難訓練、マニュアルの検討を行います。</p> <p>(2) マニュアルが機能するよう、避難通路や防災用具を定期的に点検します。</p> <p>(3) 緊急集団下校マニュアルに添い、円滑な保護者への引き渡しを目的とした訓練を行います。</p> <p>(4) 緊急時の一斉配信システムを整備します。</p> <p>(5) 宿泊を伴う校外行事では、最初に避難経路を児童に知らせ、必要に応じて避難訓練を行います。</p> <p>2. 不審者等の危機管理</p> <p>(1) 不審者対策危機管理マニュアルにそって危機レベルごとの迅速な対応ができるよう、職員の訓練を行います。</p> <p>1. 「自分のいのちは自分で守る」意識を徹底させ、教職員とともに臨機応変に避難できる子どもを育てます。</p> <p>2. 外部組織と連携し、安全意識向上のための教育を行います(四條畷警察・安全教室、NTT安全モジュール教室等)。</p>	<p>「防災や安全に関する指導」の教員自己評価を向上します。</p> <p>防災や安全に関する教員自己評価を4.0以上にします。(平成28年度4.0)</p>	

## 平成29年度 学校経営計画及び学校評価

### 3. 本年度の取組内容及び自己評価

#### 【社会貢献】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み内容	評価指標	自己評価
4 安心、安全な学校づくり	防災対策を強化します。	1. 火災、地震等の防災係を組織します。  2. 防災マニュアルを作成し、マニュアルに沿った避難訓練を実施します。  3. 不審者対策危機管理マニュアルを作成し、児童に危害が及ぶ危険性を段階的に設定します。	「防災や安全に関する安全対策」の教員自己評価を4.2以上に向上します。	